

# 7月 依存症家族勉強会のお知らせ

「徳島・ギャンブル問題を考える」第6回市民公開講座

専門医から学ぶ



## ギャンブルを 止めつづけるために

講師：古田精次（藍里病院依存症研究所長）

依存症専門医。2005年よりギャンブル依存症の治療を開始。ここ数年の相談数は年間50件以上あり、のべ相談件数は300件を超える。ギャンブル依存症の自助グループであるGA（ギャンブラーズ・アノニマス）の活動支援を続けている。依存症問題で苦しむ家族に対する強力な支援プログラムであるCRAFTを全国に広める活動を行っている。

第1部：13:30～15:00 「ギャンブル依存症について」

繰り返される深刻な借金問題、仕事や学業の問題、ウソやごまかしなどがからむ行動の異常なので背景にギャンブル問題が隠れていることがあります。その場合、借金問題を解決するだけでは決して終わりません。わかっているなぜ繰り返すのかと本人の人格や意志の問題にするだけでは解決にはつながりません。問題の根本的な原因を見つければ、的確な対策が可能です。ギャンブル依存症という病気があることを知り、学びましょう。以下の内容について説明します。

- 依存症は脳の病気
- キャンブル依存症の症状
- 症例
- どんなふうに依存していくのか
- 診断基準

第2部：15:15～16:40 「どうやって止めるか？」

ギャンブルに依存している場合、どのようにしてギャンブルを止めていけばいいのかが最も重要な課題です。具体的な方法や考え方について学びましょう。止め始めるため、止め続けるためには方法があります。困っている家族には効果的な対処法を提案します。以下の内容について説明します。

- 根本的な問題は何かをつかむ
- 金銭管理が決め手
- 再発予防
- 相談相手を間違わない
- 脳の回復を促進する

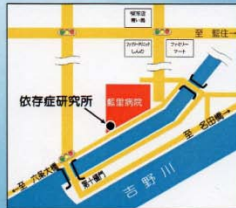
質疑応答：16:40～17:00

開催日時 平成 29年 8月 5日(土) 13:30～17:00

開催場所 藍里病院 依存症研究所 研修ホール

参加対象 一般の方(自由参加・無料)  
※事前の予約は不要です。

問合せ先 藍里病院 TEL088-694-5151(佐藤・坂東)



主催/徳島・ギャンブル問題を考える会

## 第6回ギャンブル問題を考える市民公開講座のお知らせ

ギャンブル依存症が薬物依存と同様に、脳に機能変化をきたすことが明白になったのは2000年に入ってからです。運動を円滑に行うために必要なドーパミン(神経伝達物質のひとつ)が不足することで発症するパーキンソン病の治療として、ドーパミン補充療法を受けた患者の中から、突然ギャンブルにハマる人が出てきたという報告が次々に発表されました。その薬をやめるとギャンブル行為が止まりました。ドーパミンを含む脳の機能異常とギャンブルがやめられない行動は、密接に関係していることが明白となりました。ギャンブル依存症者はギャンブルに関連した刺激に対しては脳が過剰に反応しますが、ギャンブルに関係のない刺激にはあまり反応しなくなり、ギャンブル以外のことへの脳の反応が減っている反面、ギャンブルへの反応は高まっているため、よりギャンブルから抜け出しにくいと考えられます。この現象は物質依存症者の場合の、薬物とそれ以外の刺激に対する反応に一致しています。研究の結果、繰り返されるギャンブル行為によって、脳に変化が起きていることがわかってきました。

- 家族、友人、学業、仕事、趣味に費やしていた時間が減ってきた
- 家庭内の不和が増えた
- 言葉が乱暴になったり家で荒れるようになった
- 職場や学校を休むことが多くなった
- お金が足りないから都合付けてほしいとよく言うようになった
- 家の物を勝手に持ち出して売るようになった
- 借金するようになった
- 仕事上のお金を使い込んだ
- 自殺を口にするようになった

これらの背景にギャンブル問題がないかどうか、調べてみる必要があります。ギャンブルをしていて、上のような状態が起きていれば「ギャンブル依存」をまず考えなければなりません。表面に現れた問題だけに対処しても、原因であるギャンブル問題をなんとかしなければ、こういった問題はかならず繰り返されます。今回の市民公開講座ではギャンブル依存症の症状を知り、依存症の特徴を理解し、ギャンブル地獄から抜け出る方法についてお話します。

7月 8日(土)AM10時～勉強会B(意見交換会) / 1Fミーティングルーム  
7月22日(土)AM10時～勉強会A(講義と練習) / 依存症研究所研修ホール